

日本国内でインドネシア人留学生の介護人材の養成を目指し、駐日インドネシア大使館のユスリ・ワルディアトノ教育文化担当官は7日、八戸学院大短期大学部介護福祉学科を訪れた。同大は今年4月、インドネシア人留学生を初めて受け入れるなど、産学官連携で外国人留学生

を対象とした介護人材の養成、確保に取り組んでいる。施設見学や教育課程の説明を受けたユスリ氏は「いずれはインドネシアも高齢社会を迎える。日本からいろんなことを学んで、将来に対応していきたい」と語った。

（工藤洋平）

八学短大の取り組み視察

駐日大使館の教育文化担当官

インドネシア人留学生受け入れ介護人材養成



八戸学院大短期大学部を見学するユスリ・ワルディアトノ教育文化担当官（右）

少子高齢化が進む日本で介護人材の不足が課題となる中、インドネシア側は留学生を介護士養成施設に受け入れてもらい、現場で担い手として役割を果たしながら人材育成を図る構想を描く。

この日は、同大の担当者が自治体や介護事業所と連携した産学官の取り組みを紹介。「専門学校は専門教育のみだが、大学では教養教育や日本語教育にも力を入れていく」「2年次は介護福祉士の国家資格取得に向けた受験対策を強化。これまで留学生は受験した全員が合格した」などとアピールした。

同大の印象について、ユスリ氏は「ここで学んだ人がスキルを持ち、地域の人たちにサービスを提供できるような教育されている。（生活支援なども充実し）留学生が安心して勉強していると感じた」と述べた。